

連携アプリケーション操作手順書

第 3.04 版

2026 年 2 月 10 日

変更履歴

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
1	1.00	初版作成	初版作成	-		2020/11/16
2	1.01	変更	動作確認手順について、要求データファイルの医療機関コードを医療機関に応じて変更することを記載	2. 動作確認手順(P4~P7)	変更	2021/05/28
3	1.02	変更	診療情報の追加に伴う文言の追加 (変更前) [薬剤・特定健診情報の確認について] (変更後) [薬剤情報、診療・薬剤情報、特定健診情報の確認について]	2. 動作確認手順(P6)	変更	2022/06/30
4	1.03	追加	電子処方箋管理サービス追加に伴う追加	1. はじめに(P1~2) 2. 動作確認手順(P8~9) 3. パスワードファイルによる暗号化対象ファイル毎のパスワード設定の動作確認について(P11)	追加	2022/08/31
5	1.04	変更	電子処方箋管理サービス用のテストデータサンプルイメー	2.動作確認手順(P8~10)	変更	2022/10/28

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
			ジ貼り替え			
6	1.05	変更	診療情報（手術情報）の追加に伴う文言の追加 (変更前) [薬剤情報、診療・薬剤情報、特定健診情報の確認について] (変更後) [薬剤情報等、特定健診情報の確認について]	2. 動作確認手順(P6)	変更	2023/01/31
		追加	1.5 本書で取り扱う情報種別 を追加	1.5 本書で取り扱う情報種別(p3)	追加	
7	1.06	電子処方箋管理サービス利用開始に伴う修正	「電子処方箋管理サービスの利用開始時期について」の文言を削除	表紙	削除	2023/02/28
8	3.00	変更	健診情報の追加に伴う文言の修正 (変更前) [薬剤情報等、特定健診情報の確認について] (変更後) [薬剤情報等、健診情報の	2. 動作確認手順(P6)	変更	2023/09/28

項番	版数	変更理由	変更内容	変更箇所	変更区分 (追加/変更/削除)	年月日
			確認について]			
9	3.01	変更	文言の修正 (変更前) [薬剤情報等、健診情報の 確認について] (変更後) [薬剤情報等、特定健診情 報の確認について]	2. 動作確認手順(P6)	変更	2023/11/15
10	3.02	追加	電子カルテ情報共有サービス 追加に伴う追加	1. はじめに(P1~3) 2. 動作確認手順(P6) 3. パスワードファイルによる暗号化対 象ファイル毎のパスワード設定の動作確 認について(P12)	追加	2024/10/7
11	3.03	変更	表記ゆれの修正	全体	修正	2025/12/02
12	3.04	Windows11 対 応	画面イメージを Windows11の画面に変更	全体	変更	2026/2/10

目次

1. はじめに.....	1
1.1 本書の目的.....	1
1.2 本書の構成.....	1
1.3 本書の対象.....	2
1.4 導入時の前提条件.....	3
1.5 本書で取り扱う情報種別.....	3
2. 動作確認手順.....	4
3. パスワードファイルによる暗号化対象ファイルごとのパスワード設定の動作確認について.....	11

1. はじめに

1.1 本書の目的

本書は、医療機関・薬局等の HIS 等（レセコン含む）既存システム（以下、「既存システム」とする）とオンライン資格確認等システム、電子処方箋管理サービス及び電子カルテ情報共有サービスが、ファイル連携するために使用する連携アプリケーションの動作確認手順を示す。

1.2 本書の構成

本書の構成を「表 1-1 本書の構成」に示す。

表 1-1 本書の構成

項番	資料名	概要
1	連携アプリケーション操作手順書（本書）	オンライン資格確認等システム、電子処方箋管理サービス及び電子カルテ情報共有サービスとファイル連携するために必要な、連携アプリケーションの動作確認手順を記載した資料

1.3 本書の対象

既存システムとオンライン資格確認等システム、電子処方箋管理サービス及び電子カルテ情報共有サービス間の連携には「①連携アプリケーション」、「②Webアプリケーション連携」、「③顔認証連携」及び「④WebAPI連携」の4つの方式がある。本書は①の連携アプリケーションを対象とする。

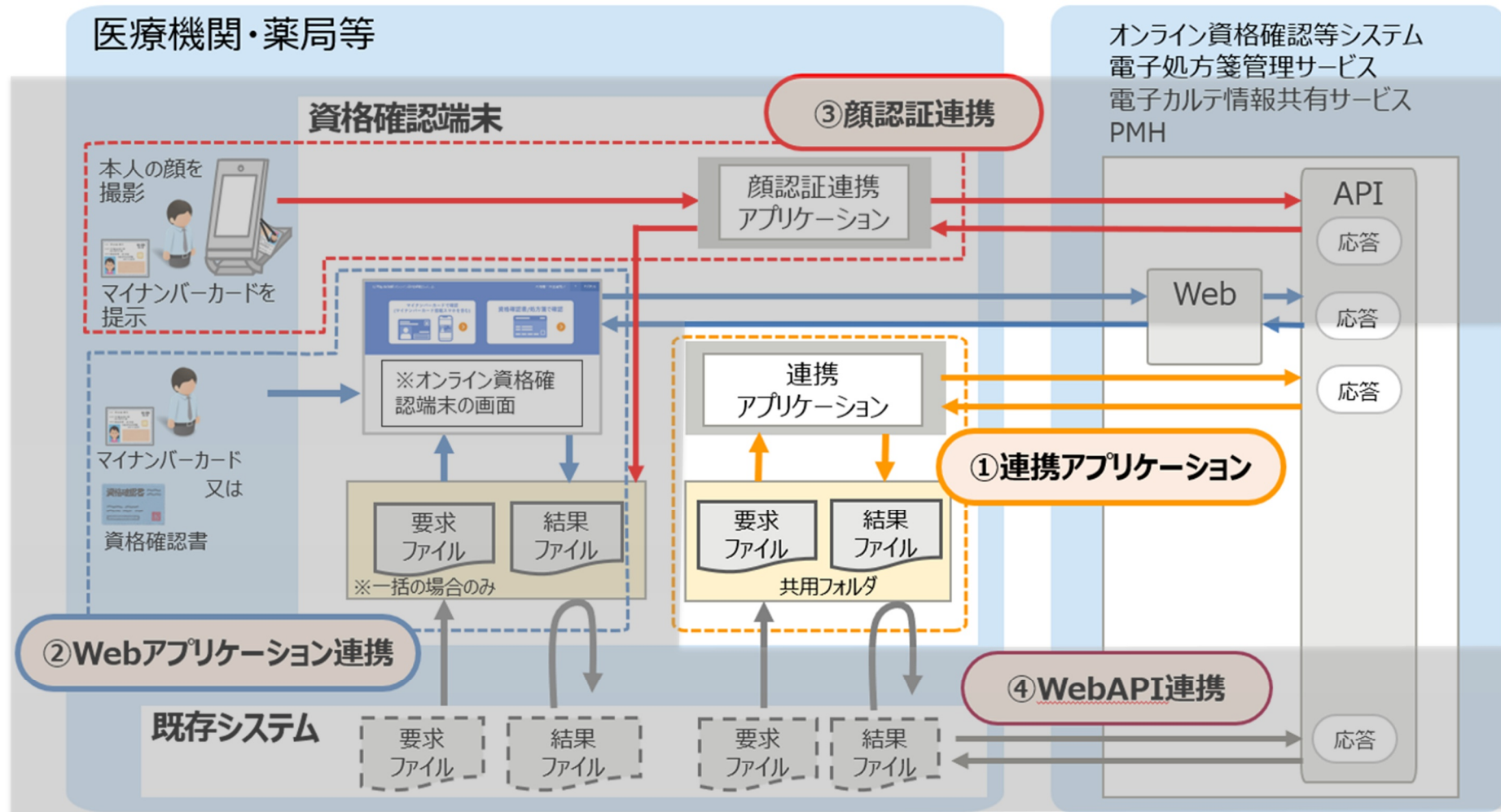


図 1-1 既存システムとオンライン資格確認等システム、電子処方箋管理サービス、電子カルテ情報共有サービス間の処理概念図

1.4 導入時の前提条件

別紙「連携アプリケーション導入手順書」を元に、連携アプリケーションが導入とセットアップが完了していること。

1.5 本書で取り扱う情報種別

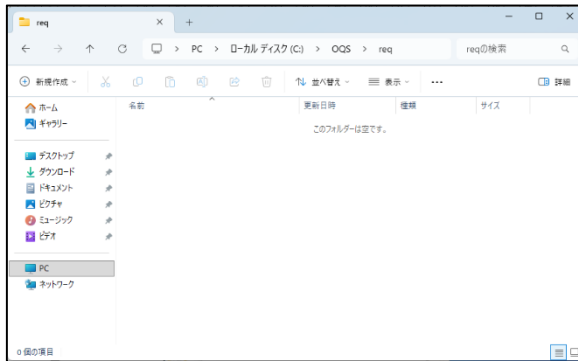
本書で取り扱う情報種別については「外部インターフェイス仕様書（薬剤情報等・特定健診情報・臨床情報）」の「1.4 本書で取り扱う情報種別」を参照すること。

2. 動作確認手順

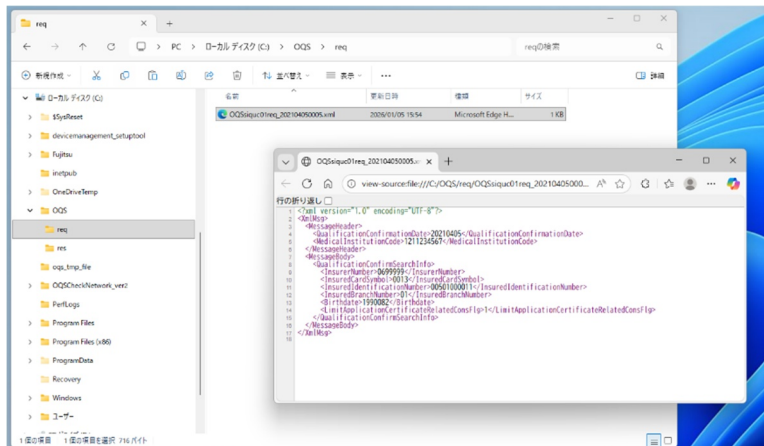
動作確認手順の概要を以下に示す

[オンライン資格確認について]

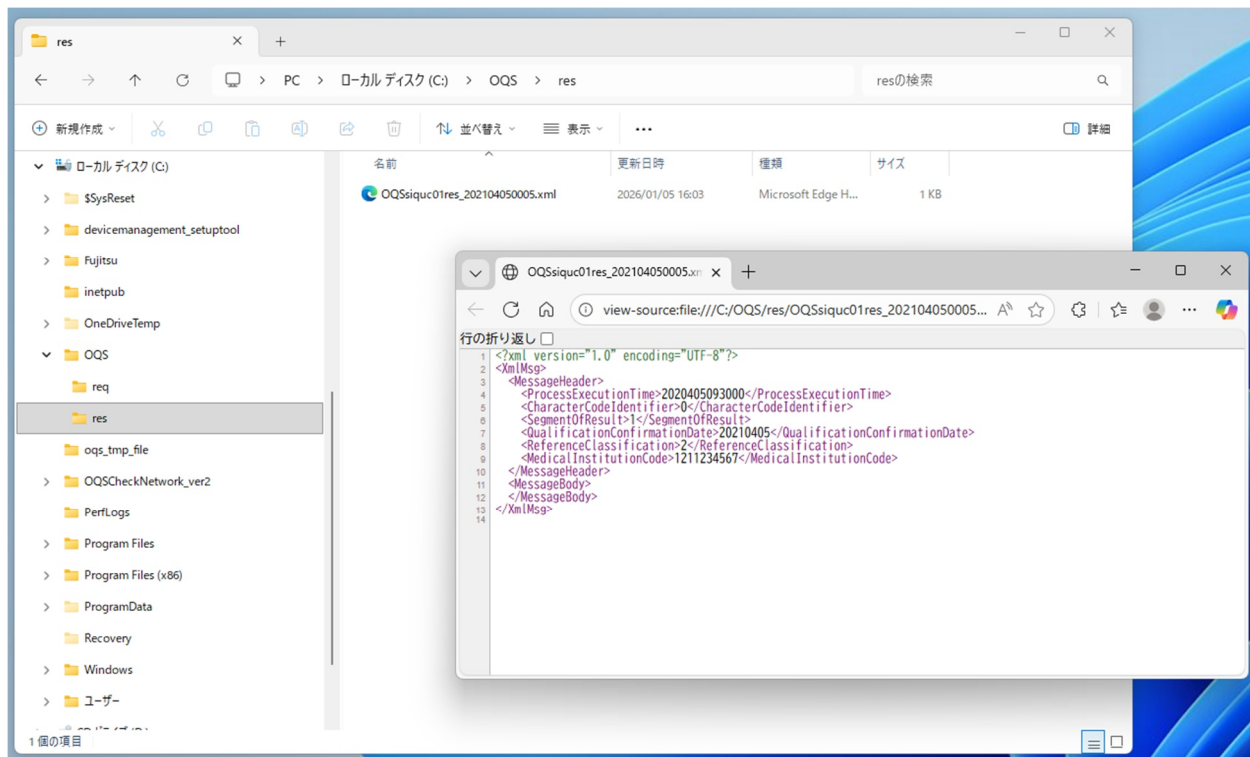
- ① ユーザー定義ファイル（C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\config\UserDefinition.property）の“RequestDataDir”に記載したフォルダーを表示する。



- ② ONS にて公開されている、被保険者用資格確認用要求データファイルのテストデータサンプル例（OQSSiuc01req_202104050005.xml）を元に、<MedicalInstitutionCode>タグを医療機関に応じた医療機関コードに変更して要求データファイルを作成し、①のフォルダーに格納する。

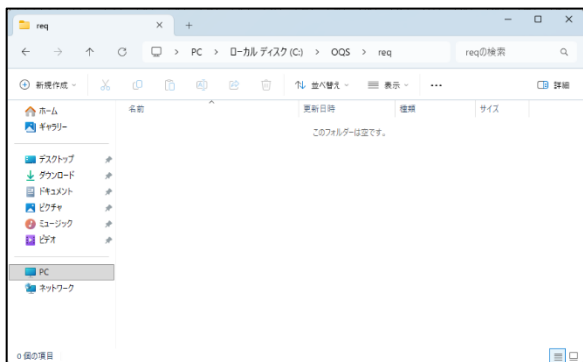


- ③ ユーザー定義ファイル（C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property）の“ResponseDataDir”に記載したフォルダーを表示し、要求データファイルに対応する資格確認結果のデータファイルが格納されていることを確認する。
また、資格確認結果のデータファイル内の<SegmentOfResult>タグが 1 であることを確認する。



[薬剤情報等、特定健診情報、臨床情報の確認について]

- ① ユーザー定義ファイル（C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property）の“RequestDataDir”に記載したフォルダーを表示する。



- ② 以下の薬剤情報確認用要求データファイルのテストデータサンプル例を元に、<MedicalInstitutionCode>タグを医療機関に応じた医療機関コードに変更して要求データファイルを作成し、①のフォルダーに格納する。

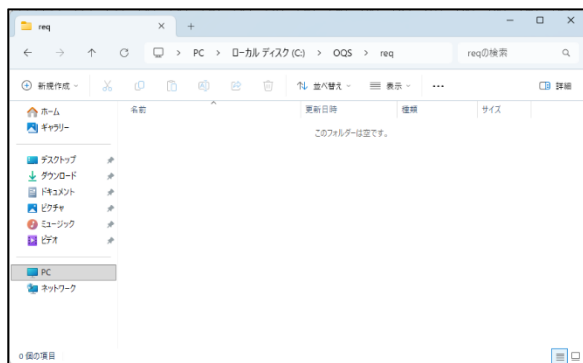
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<XmlMsg>
  <MessageHeader>
    <MedicalInstitutionCode>1211234567</MedicalInstitutionCode>
    <InsurerNumber>06999999</InsurerNumber>
    <InsuranceCardSymbol>0013</InsuranceCardSymbol>
    <InsuredPersonIdentificationNumber>00501000011</InsuredPersonIdentificationNumber>
    <BranchNumber>01</BranchNumber>
  </MessageHeader>
  <MessageBody>
    <StartDate>202005</StartDate>
    <EndDate>202007</EndDate>
    <FileCategory>2</FileCategory>
  </MessageBody>
</XmlMsg>
```

- ③ ユーザー定義ファイル（C:\¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property）の“ResponseDataDir”に記載したフォルダーを表示し、要求データファイルに対応する結果のデータファイルが格納されていることを確認する。
また、結果のデータファイル内の<ResultCode>タグが 1 であることを確認する。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<XmlMsg>
  <MessageHeader>
    <ProcessExecutionTime>20201127131919</ProcessExecutionTime>
    <CharacterCodeIdentifier>0</CharacterCodeIdentifier>
    <QuanInf>
      ...
    </QuanInf>
    <RequestInfo>
      <ReqInsurerNumber>06999999</ReqInsurerNumber>
      <ReqBranchNumber>01</ReqBranchNumber>
      <ReqEndDate>202007</ReqEndDate>
      <ReqMedicalInstitutionCode>1211234567</ReqMedicalInstitutionCode>
      <ReqInsuranceCardSymbol>0013</ReqInsuranceCardSymbol>
      <ReqStartDate>202005</ReqStartDate>
      <ReqInsuredPersonIdentificationNumber>00501000011</ReqInsuredPersonIdentificationNumber>
      <ReqFileCategory>2</ReqFileCategory>
    </RequestInfo>
    <ResultCode>1</ResultCode>
  </MessageHeader>
  <MessageBody>
    ...
  </MessageBody>
</XmlMsg>
```

[電子処方箋管理サービスの確認について]

- ① ユーザー定義ファイル（C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\config\UserDefinition.property）の” PrescriptionRequestDataDir” に記載したフォルダーを表示する。



【医療機関の場合】

- ② 以下の電子処方箋向け要求データファイルのテストデータサンプル例（EPSsiPIR01req_XXXXXXXXXXXX.xml）を元に、
<MedicalInstitutionCode>タグを医療機関に応じた医療機関コードに変更して電子処方箋向け要求データファイルを作成し、①のフォルダーに格納する。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<XmlMsg>
  <MessageHeader>
    <MedicalInstitutionCode>1311234567</MedicalInstitutionCode>
    <ArbitraryFileIdentifier>Sample</ArbitraryFileIdentifier>
  </MessageHeader>
  <MessageBody>
    <PrescriptionInfo>PD94bWwgdmVyc2lvcj0iMS4wIiBlbmNvZGluZz0iVVRGLTgiPz48RG9jdW1l~G9jd#w1lbnQ+</PrescriptionInfo>
    <IssueType>2</IssueType>
  </MessageBody>
</XmlMsg>
```

- ③ ユーザー定義ファイル（C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\config\UserDefinition.property）の” PrescriptionResponseDataDir”に記載したフォルダを表示し、電子処方箋向け要求データファイルに対応する電子処方箋向け結果のデータファイルが格納されていることを確認する。
- また、結果のデータファイル内の<SegmentOfResult>タグが 1 であることを確認する。

```
<XmlMsg>
  <MessageHeader>
    <CharacterCodeIdentifier>0</CharacterCodeIdentifier>
    <SegmentOfResult>1</SegmentOfResult>
    <ArbitraryFileIdentifier>Sample</ArbitraryFileIdentifier>
  </MessageHeader>
  <MessageBody>
    <PrescriptionId>ba389ab1-1674-436b-98fd-a5376c59b412</PrescriptionId>
    <AccessCode>077439</AccessCode>
    <ProcessingResultStatus>1</ProcessingResultStatus>
  </MessageBody>
</XmlMsg>
```

【薬局の場合】

- ④ 以下の電子処方箋向け要求データファイルのテストデータサンプル例（EPSsiDIM01req_XXXXXXXXXXXX.xml）を元に、<MedicalInstitutionCode>タグを医療機関に応じた医療機関コードに変更して電子処方箋向け要求データファイルを作成し、①のフォルダに格納する。

```

▼ <XmlMsg>
  ▼ <MessageHeader>
    <MedicalInstitutionCode>9948000014</MedicalInstitutionCode>
    <ArbitraryFileIdentifier>Sample</ArbitraryFileIdentifier>
  </MessageHeader>
  ▼ <MessageBody>
    <DispensingResult>PD94bWwgdMvYc2lrbj0iMS4wIiBlbmNvZGluZz0iVVRGLTgiPz48RG9jdW1l~G9jd#w1lbnQ+</DispensingResult>
  </MessageBody>
</XmlMsg>

```

- ⑤ ユーザー定義ファイル（C:\ProgramData\OQS\OQSComApp\config\UserDefinition.property）の“PrescriptionResponseDataDir”に記載したフォルダーを表示し、電子処方箋向け要求データファイルに対応する電子処方箋向け結果のデータファイルが格納されていることを確認する。

また、結果のデータファイル内の<SegmentOfResult>タグが 1 であることを確認する。

```

▼ <XmlMsg>
  ▼ <MessageHeader>
    <ArbitraryFileIdentifier>Sample</ArbitraryFileIdentifier>
    <SegmentOfResult>1</SegmentOfResult>
    <NumberOfProcessingResult>1</NumberOfProcessingResult>
    <NumberOfNormalProcessing>1</NumberOfNormalProcessing>
    <NumberOfError>0</NumberOfError>
    <CharacterCodeIdentifier>0</CharacterCodeIdentifier>
  </MessageHeader>
  ▼ <MessageBody>
    ▼ <DispensingResultUnit>
      <ProcessingResultStatus>1</ProcessingResultStatus>
      <DispensingResult>PD94bWwgdMvYc2lrbj0iMS4wIiBlbmNvZGluZz0iVVRGLTgiPz48RG9jdW1l~G9jd#w1lbnQ+</DispensingResult>
    </DispensingResultUnit>
  </MessageBody>
</XmlMsg>

```

3. パスワードファイルによる暗号化対象ファイルごとのパスワード設定の動作確認について

端末設定ファイルに“暗号化あり”を設定し、要求ファイルにパスワードファイルを同梱した場合、連携アプリケーションはパスワードファイル内の文字列を用いて結果ファイルを暗号化する。

本章では、パスワードファイルのサンプルを記載する。

- ① 要求データファイル（パスワード付き ZIP）を用意する。

暗号化／圧縮後のファイル名 : OQSsiquc01req_YYYYMMDDxxxx.zip

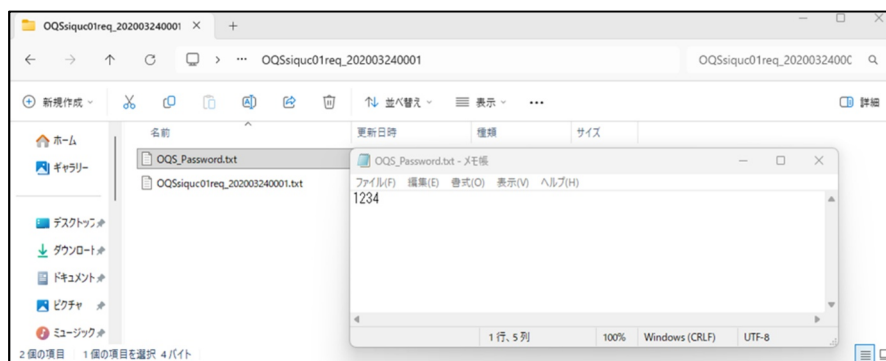
[内容①] 要求ファイル名 : OQSsiquc01req_YYYYMMDDxxxx.xml

[内容②] パスワードファイル名 : OQS_PassWord

※ ファイル名の YYYYMMDDxxxx は外部インターフェイス仕様書の「3.1.4 ファイル名規約」を参照すること

パスワードファイル内にパスワードをテキスト形式で作成する。パスワードポリシーは以下の通り。

- 半角英数字
- 1 桁以上 12 桁以内
- 文字コードは UTF-8 又は Shift_JIS
- パスワードは 1 行で記載し改行コードは使用しないこと。また、空白（スペース）文字は使用しないこと。



- ② 連携アプリケーション導入手順書の「5.2 暗号化識別ファイルの設定」を参照し、暗号化の設定を行う。
- ③ ①にて作成した要求データファイルをユーザー定義ファイル（C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property）の“RequestDataDir”及び、“PrescriptionRequestDataDir”に記載したフォルダーに格納する。
- ④ ユーザー定義ファイル（C:¥ProgramData¥OQS¥OQSComApp¥config¥UserDefinition.property）の“ResponseDataDir”及び、“PrescriptionResponseDataDir”に記載したフォルダーを表示し、要求データファイルに対応する資格確認結果の結果データファイル（パスワード付き ZIP）が格納されていることを確認する。
また、①にて作成したパスワードファイル内に記載した文字列で ZIP 解凍できることを確認する。